

# 大紀町木のおもちゃプロジェクト

実施主体：吉田本家山林部





私はCLL活動の「皇學館みらい対話団」に所属しています。その活動を行う中でさらに深く三重について知りたいと思い、「大紀町木のおもちゃプロジェクト」に参加しました。

最初に行われた事前学習会では三重の森林や林業を舞台に撮影された映画を鑑賞しました。そこで初めて林業という職の大きさと地方と都市部における職業の違いに気付かされました。

そして、9月12日には大紀町で古くから林業を営まれている、吉田本家山林部の代表・吉田正木さんのご案内で山林を歩き、座学と林業体験をさせていただきました。自分の足で山林を歩いてみると、雨のせいもあってか予想以上に体力を消耗し、山の中の車での移動も、慣れている人でなければ運転できるものではないと感じました。また、吉田さんから伺う話は初めて知るばかりで、とても新鮮でした。例えば、同じ森林でも国が所有する「国有林」と市町村や一般の方が所有する「民有林」があり、さらに民有林は「県有林」と「私有林」に分けられます。三重は林業家が多く、土地のほとんどを民有林が占めていました。江戸時代、火事が起きた時は焼け跡に新たな木を植えると自分のものとして収穫できるなど、山を育てる知恵が凝らされていたそうです。しかし、明治以降、燃料として木材を大規模的に切り出し、また第二次世界大戦の時には政府の要求により木材を供出したりと、山が荒れた時代が続きました。

近年、日本の林業は産業として成立しているとは言い難い状況で、他国に比べ価格が低いにもかかわらず、木が売れないことによって大規模な林業家の方が何人も山林を手離しているそうです。これに対し、吉田さんは捨てられていた木を使ってストーブの薪にしたり、ギターを制作するなど、「木」が無駄にならないようさまざまな工夫をされています。

このプロジェクトに参加するまでは正直、森林に対する関心や知識は恥ずかしいほど薄く、少ないものでした。今回、実際に自分の目で見て、耳で聞き、肌で感じたことで、当たり前すぎて私たちが気付いていない大切なことがたくさんあることを実感しました。この林業体験を通し、大紀町を「木」で盛り上げていくためにも、まずは一人でも多くの人に「林業」について知っていただけるよう、活動していきたいと思います。（指導教員：池山 敦）

